

22nd annual congress of European College of Sports Sciences 報告書

生命環境科学系 博士課程1年 中野信泰

「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」を頂き、往復の移動を含めて2017年7月3日から7月10日までの8日間、ドイツのエッセンで開催された22nd annual congress of European College of Sports Sciences (ECSS)に参加させて頂きました。ECSSはスポーツ科学に関するあらゆる分野を対象とした学会で、毎年開催されています。世界中から多くの研究者が参加し、多くの研究発表が行われた。また一般研究発表のみならず、招待講演を通して各分野の内容を詳しく学び、企業展示のブースでは見たことのない装置や技術が披露されていた。かなり広いスペースに沢山の展示物が存在しており、研究者だけでなく企業などからも多くの参加者がいることが知れる。

自分以外の発表では特に Müller Erich らの「VARIABILITY AND COORDINATION IN HUMAN MOVEMENT」と題する招待講演セッションであった。私が最近興味を持って読んできた論文内容と同系統の、身体運動のバラツキと協調に関する話題であった。協調度を定量化する手法として Vector Coding や Continuous Relative Phase を用いた結果を示しており参考になった。これらは私の研究室の対象分野の隣接領域であるため同研究室では普段あまり聞けない内容であり、有意義であった。

私は大会3日目に「THE INFLUENCE DEGREE OF RELEASE PARAMETERS ON BALL ARRIVAL POSITION IN BASKETBALL SHOOTING」という題目でポスター発表を行いました。熱心に話を聞いてくださり、途中英語を聞き取れないこともありましたが、丁寧に質問していただき、勉強になりました。この経験を活かして今後の研究の発展と、成果の発表に役立てていきたいと思えます。

初めての国際学会であったが、世界中で研究に励む研究者たちの発表に触れ、自らの意欲も高まる貴重な機会となった。この機会を得られたことに感謝し、研究成果をもって還元するため、更なる日々の研究活動に励みたい。

